

関係各位

病害虫防除所長

平成26年度病害虫発生予察技術情報（第4号）の送付について

普通期稲の葉いもちの発生について

本年は8月の日照時間が106.8時間と平年の52.3パーセント、降水量は1,537ミリと平年の約5倍（第4半旬までのデータによる）の極端な天候不順に見舞われました。これらの気象条件から、現在、県東部と中央部、中西部において葉いもちが多発生となっており、特に県東部では発生程度も高くなっています（表1）。

また近県では愛媛県、香川県、岡山県、広島県でいもち病の注意報が、山口県と鳥取県では警報が発表されています。

向こう1ヶ月の気象予報では、晴れの日が多く、気温は平年並からやや高め、降水量は平並からやや少なめとなっているため、いもち病の感染リスクは高くはないと考えられますが、ほ場条件によっては穂いもちの発生が懸念されます。今後、ほ場での発生状況と気象情報に十分注意して下記の対策を心がけて下さい。

記

「防除対策」

- 1 進行型病斑が見られているほ場では、穂いもちの発生を防ぐため、出穂期以降の追加防除を検討してください。
- 2 薬剤防除を行う場合は、周辺作物への薬剤の飛散に十分に気をつけてください。
- 3 QoI剤（ストロビルリン系殺菌剤）耐性いもち病の発生を防ぐため、これらの剤の使用は作期を通じて1回としてください。

表1. 普通期稲における葉いもち発生状況(8月下旬調査)

| | 本年発生面積(ha) | 平年発生面積(ha) | 作付面積(ha) | 発生程度 |
|-----|------------|------------|----------|------|
| 東 部 | 128 | 6 | 452 | 高 |
| 中央部 | 455 | 122 | 1372 | やや低 |
| 中西部 | 800 | 377 | 2500 | 並 |
| 西 部 | 10 | 172 | 1036 | 低 |
| 県合計 | 1393 | 677 | 5360 | 並 |